

防除情報(病害虫情報 号外 第7号)

令和3年7月8日
神奈川県農業技術センター

クビアカツヤカミキリに注意！

- 街路樹のサクラに寄生しているクビアカツヤカミキリが、県内で初めて確認されました(図1)。この木には、幼虫のフンと木くずが混ざったフラスの排出(図2)、木の中で羽化した成虫が脱出した穴(脱出孔:図3)や、木の内部で幼虫が成育していることを示す樹液の流出なども認められました。
- クビアカツヤカミキリは、特定外来生物に指定されている侵入害虫で、国内では11都府県で発生が確認されており、サクラ、ウメ、モモなどのバラ科植物を中心に多種の樹木を加害することが知られています。幼虫が幹や枝の内部を食い荒らし、時に枯死させるなど、大きな被害を受けることがあります。
- 今回、被害を受けたサクラはすでに伐採し適切な処理がされており、周辺での成虫の発生は現時点では確認されていません。また、これまでに県内の果樹園での発生は認められていませんが、他の都府県では公園等のサクラで発生が確認された後に、ウメやスモモなどの果樹園に被害が拡大する事例が多いことから、今後注意が必要です。



図1 クビアカツヤカミキリ成虫



図2 幼虫が寄生している樹に見られるフラス



図3 成虫の脱出孔

クビアカツヤカミキリの特徴

- ☆成虫は体長28～37mm、全体に光沢のある黒色で、胸部(クビの部分)が赤い。
- ☆樹木内部で蛹から羽化した成虫が6月上旬から8月上旬に出現し、交尾・産卵する。幼虫期間は2～3年で、6月から10月頃までフラスの排出が続く。
- ☆国内ではサクラ、ウメ、モモ、スモモで発生が確認されている。

防除対策

- ・ 早期発見・早期防除の徹底が蔓延を防ぎます。成虫を発見した場合は直ちに捕殺して下さい。また、周辺の樹木をよく観察し、フラスの排出、樹液の流出など、幼虫の寄生が疑われる樹がないか確認して下さい。
- ・ 幼虫の寄生が疑われる場合、幼虫食入孔があれば針金等でフラスを掻き出し、幼虫を針金等で刺殺するか、ロビンフードなどの薬剤により防除します。
- ・ 成虫の分散及び新たな産卵防止のため、樹幹部にネット(4mm目合い以下で容易に切れないもの)を巻き付けます。設置後は定期的に見回りを実施し、成虫を発見したら捕殺します。
- ・ 幼虫の寄生が疑われる樹は可能な限り伐採し、伐採木や切り枝等を適切に処理します。
- ・ 農薬に関する情報は、令和3年7月7日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333

ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>

○ 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。